

第3章 環境施策の進捗状況

1 低炭素社会の構築

(1) 温室効果ガス排出削減の推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2013年度 (平成25年度) (基準年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	
市域の温室効果ガス総排出量	2020年度までに2013(平成25)年度の排出量から5%以上削減する。	2,076 万トン-CO ₂	1,637 万トン-CO ₂	2022年度に算定予定	・目標達成の見込み。 ・引き続き、新たな「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」に基づき、取組みを進める。
市役所の温室効果ガス総排出量	2020年度に2013(平成25)年度比20.1%削減する。	100.1 万トン-CO ₂	82.7 万トン-CO ₂ ▲17.4%	78.8 万トン-CO ₂ ▲21.3%	・目標達成。 ・引き続き、新たな「大阪市地球温暖化対策実行計画〔事務事業編〕」に基づき、取組みを進める。

(2) おおさかエネルギー地産地消プランの推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2012年度 (平成24年度) (基準年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	
電力の地産地消 (供給力の増加と需要の削減)	2020年度までに2012年度基準で、府域で+150万kWを創出する。	—	+116.7万kW (77.8%)	+124.8万kW (83.2%)	・再生可能エネルギーの固定価格買取(FIT)制度における調達価格が年々低下していることに伴い、鈍化傾向。 ・「おおさかスマートエネルギープラン」に基づき、取組みを進める。

※ ()内は進捗率

2 循環型社会の形成

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	
一般廃棄物の減量化	ごみ減量目標・2025年度の年間ごみ処理(焼却)量:84万トン(※)	93万トン	93万トン	86万トン	・令和2年度は大幅に減少しているが、一時的な現象であると考えられる。 ・「大阪市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、取組みを進める。

※ 2020年3月改定の「大阪市一般廃棄物処理基本計画」の目標である。

3 快適な都市環境の確保

(1) 大阪市生物多様性戦略に基づく取組みの推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	
自然や生き物を身近に感じる市民の割合	2030年度までに50%以上にする。	30.4%	37.8%	42.6%	・目標達成に向かって推移。 ・新たな「大阪市生物多様性戦略」に基づき、取組みを進める。

(2) 都市景観の保全と創造

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2012年度 (平成24年度) (基準年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	
都市公園の市民一人あたり面積	2015(平成27)年度末:約3.6m ² 2025年度末:約4.0m ² 将来:約5.0m ²	3.51m ²	3.48m ²	3.48m ²	・公園面積は増加しているが、人口も増加しているため、近年は横ばい状態である。 ・引き続き公園緑地の拡大に努める。

(3) ヒートアイランド対策の推進

目標項目	目標	目標の達成状況			評価
		2016年度 (平成28年度) (2014~2018年度)	2017年度 (平成29年度) (2015~2019年度)	2018年度 (平成30年度) (2016~2020年度)	
熱帯夜日数 (5年移動平均)*	2025年(2023-2027年)の地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年(1998-2002年)の46日より3割減らす。	37日	39日	42日	・引き続き、目標達成に努める。 ・「おおさかヒートアイランド対策推進計画」に基づき、取組みを進める。

* 年平均気温の長期的な傾向を把握するため、その年および前後各2か年を含めた5年間の平均値として示したものの。

(4) 都市環境の保全・改善の取組み

目標項目	目標	目標の達成状況 ^{※2}			評価	
		2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)		
大気環境						
※1 一般局	二酸化窒素	環境基準の達成(100%)	100%	100%	100%	・浮遊粒子状物質については目標達成、二酸化窒素、微小粒子状物質については、一部非達成の地点が存在する。 ・光化学オキシダントについては全局で環境基準を非達成となったが、その原因物質とされている窒素酸化物及び揮発性有機化合物(非メタン炭化水素を含む)の排出量については減少傾向にある。 ^{※3} ・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、非達成項目については、早期達成に努める。
		大阪市環境保全目標の達成(100%)	85%	92%	92%	
	浮遊粒子状物質	環境基準の達成(100%)	100%	100%	100%	
	微小粒子状物質	環境基準の達成(100%)	71%	100%	86%	
	光化学オキシダント	環境基準の達成(100%) ^{※3}	0%	0%	0%	
※1 自排局	二酸化窒素	環境基準の達成(100%)	100%	100%	100%	
		大阪市環境保全目標の達成(100%)	55%	64%	82%	
	浮遊粒子状物質	環境基準の達成(100%)	100%	100%	100%	
	微小粒子状物質	環境基準の達成(100%)	60%	80%	80%	
	非メタン炭化水素	大阪市環境保全目標の達成(100%)	0%	0%	0%	

目標項目	目標	目標の達成状況※2			評価		
		2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)			
水環境(生活環境の保全に関する環境基準)							
河川	全河川のBOD	環境基準の達成 (100%)	100%	97%	100%	・全地点において達成。 ・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、未達成河川については早期達成に努める。	
海域	海域のCOD	環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%		
水環境(人の健康の保護に関する環境基準)							
人の健康の保護に関する環境基準達成状況		環境基準の達成 (100%)※4	100%	100%	100%	・全地点で目標を達成。 ・引き続き目標の達成維持に努める。	
ダイオキシン類							
大気		環境基準の達成 (100%)	100%	100%	100%	・河川の底質以外においては目標達成。 ・引き続き、目標の達成維持に努めるとともに、非達成項目については、早期達成に努める。	
公共用水域	水質		河川	100%	95%		100%
	海域		100%	100%	100%		
底質	河川		100%	90%	90%		
	海域		100%	100%	100%		
地下水質			100%	100%	100%		
土壌		100%	100%	100%			
自動車騒音							
自動車騒音に係る環境基準達成状況		幹線道路沿道住居における環境基準達成率の上昇等	95%	95%	—	・長期的には改善傾向だが、近年は横ばい状態。 ・「大阪市環境基本計画」に基づき、取組みを進める。	

※1 一般局：一般環境大気測定局、自排局：自動車排出ガス測定局

※2 表中の数値は、〔目標達成局(地点)数/測定局(地点)数〕×100を示す。ただし、「水環境(人の健康の保護に関する環境基準)」は、〔目標達成項目数/測定項目数〕×100を示す。

※3 光化学オキシダントについては、全国的にも環境基準達成率が極めて低い水準(2017年度は達成率0%)となっており、国は光化学オキシダントの改善傾向を評価するための指標の検討を行うとともに、越境大気汚染への対策や科学的知見の充実等を図ることとしている。大阪市は発生源対策を通じて環境濃度の改善をめざす。

※4 水環境(人の健康の保護に関する環境基準)については、自然的要因(例、海水の影響)による環境基準の超過は除く。

4 すべての主体の参加と協働

(大阪市の率先行動)

目標項目	取組項目	基準値 (2013年度) (平成25年度)	目標値	実績値 (2020年度) (令和2年度)	達成/ 未達成
大阪市役所の 環境負荷の低減	温室効果ガス 排出量	100.1 万トン-CO ₂	2020(令和2)年 度に平成25年度 比20.1%削減	78.8 万トン-CO ₂ (基準値から21.3%削減)	達成
	コピー用紙使用量	254,533 千枚	基準値以下	259,362 千枚 (基準値から1.9%増加)	未達成
	上水使用量	9,844,504 m ³	基準値以下	5,807,288 m ³ (基準値から41.0%削減)	達成
	廃棄物排出量	40,237トン	基準値以下	34,961トン (基準値から13.1%削減)	達成

※ 大阪市庁内環境管理計画による取組み。

※ 温室効果ガス排出量は大阪広域環境施設組合を含む。

※ 廃棄物排出量の平成25年度基準値には、公園事務所から発生する「木くず」及び浄水処理過程で発生する「浄水発生土」が含まれていないため、令和2年度実績値も「木くず」(5,088トン)、「浄水発生土」(8,074トン)を控除し比較している。